



2016年3月期
決算補足説明資料

2016年5月9日

アニコム ホールディングス株式会社

(証券コード：8715)

会社名	アニコム ホールディングス株式会社 (Anicom Holdings,Inc.)
事業内容	損害保険業 (ペット保険)、動物病院支援事業 等
所在地	東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階
設立年月日	2000年7月5日
代表者	代表取締役 小森 伸昭
資本金	43億9千万円 (2016年3月末日 現在)
連結従業員数	660名 (うち、獣医師 99名。いずれも2016年3月末日 現在。契約社員含む)
グループ会社	アニコム損害保険 (株)、アニコム パフェ (株)、アニコム フロンティア (株)、 アニコム先進医療研究所 (株)、アニコム キャピタル (株)

I. 予防型保険会社としての取組み（健康寿命延伸に向けて） 4

II. 2017年3月期 事業計画 9

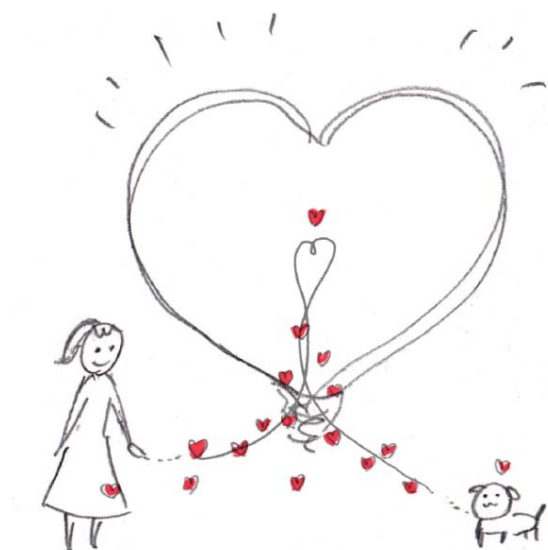
III. 2016年3月期 決算概要 13

1. 私たちのミッション

どうぶつの健康寿命延伸を支え、彼らがもたらす『心の発電力』を高めます

現代社会において、わたしたち人間と共に暮らすどうぶつは『家族の一員』であることはもちろん、
となりに寄り添うだけで心の豊かさをもたらし、明日への大きな活力を与えてくれる存在となっています。

それはまさに、わたしたち人間にとって『心の発電所』といえる存在です。



きみが、心の発電所。

アニコムグループでは、家族の一員であり心の発電所でもあるどうぶつがケガや病気をせず、
長く健康に幸せに暮らせる社会を創りあげることで、わたしたち人間に長く活力を与え、
社会の発展に貢献するものであると捉え、すべての命の幸せを追求してまいります。

2. 健康診断と正しい生活習慣の提案

定期健康診断と正しい生活習慣の融合により、どうぶつと人間双方の健康寿命延伸を目指します

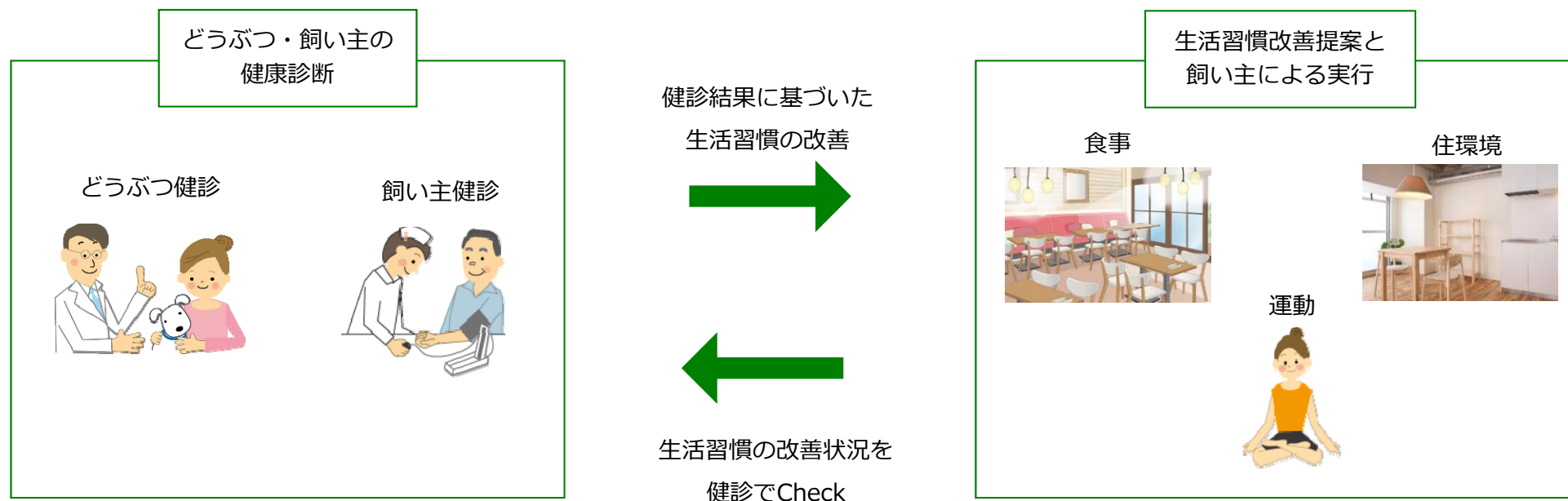
飼育環境の変化に伴いどうぶつにも生活習慣病が広がるなか、生活習慣に起因する疾病をはじめとして、どうぶつの疾病を予防するためには人間と同様に早期発見の仕組みが肝要であり、そのためには健康診断が重要な役割を果たします。

また、どうぶつの生活習慣は飼い主が決定するため、どうぶつのみならず飼い主自身も健康診断を行うことが重要です。

そして、どうぶつと人間双方の健康診断結果に基づき、両者の生活習慣改善に関する各種サービスを飼い主に対して促す仕組みを構築し、

『健康診断 → 生活習慣改善提案 と（飼い主による）実行 → 健康診断』

をくり返すことで、どうぶつと人間双方の健康寿命延伸につながる仕組みを構築してまいります。



3. 健康体と疾病時の比較により、予防の実現を目指す

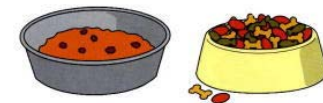
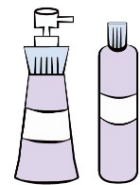
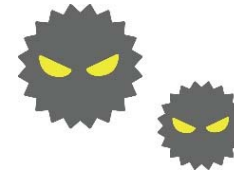
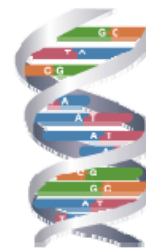
保険金の詳細な解析を進め、健康体との比較により疾病の発生因子を突き止めます

疾病の原因を多角的な角度から解析するとともに、その動物自身の健康時との比較や、別の動物との比較をすることにより、その疾病を根本から防ぐことを目指します。

たとえばウイルス性疾患の場合、「そのウイルスが原因」ではなく、「なぜそのウイルスを取りこんでしまったか」「どのルートで取り込んだ可能性があるか」「それを防ぐ手段はないか」「そもそも免疫力が高ければ発症しなかったのではないか」「なぜ免疫力が落ちていたか。原因は食事なのか、運動なのか、睡眠なのか」など、原因の根本原因を探り、その解決策を提示することを目指します。



- ✓ この病気は何が原因なのか？
- ✓ なぜ発症したのか？
- ✓ 健康時との免疫力の違いは何か？
- ✓ なぜ免疫力が低くなっていたのか？
- ✓ 他の個体との免疫力の違いはあるか？
- ✓ etc.



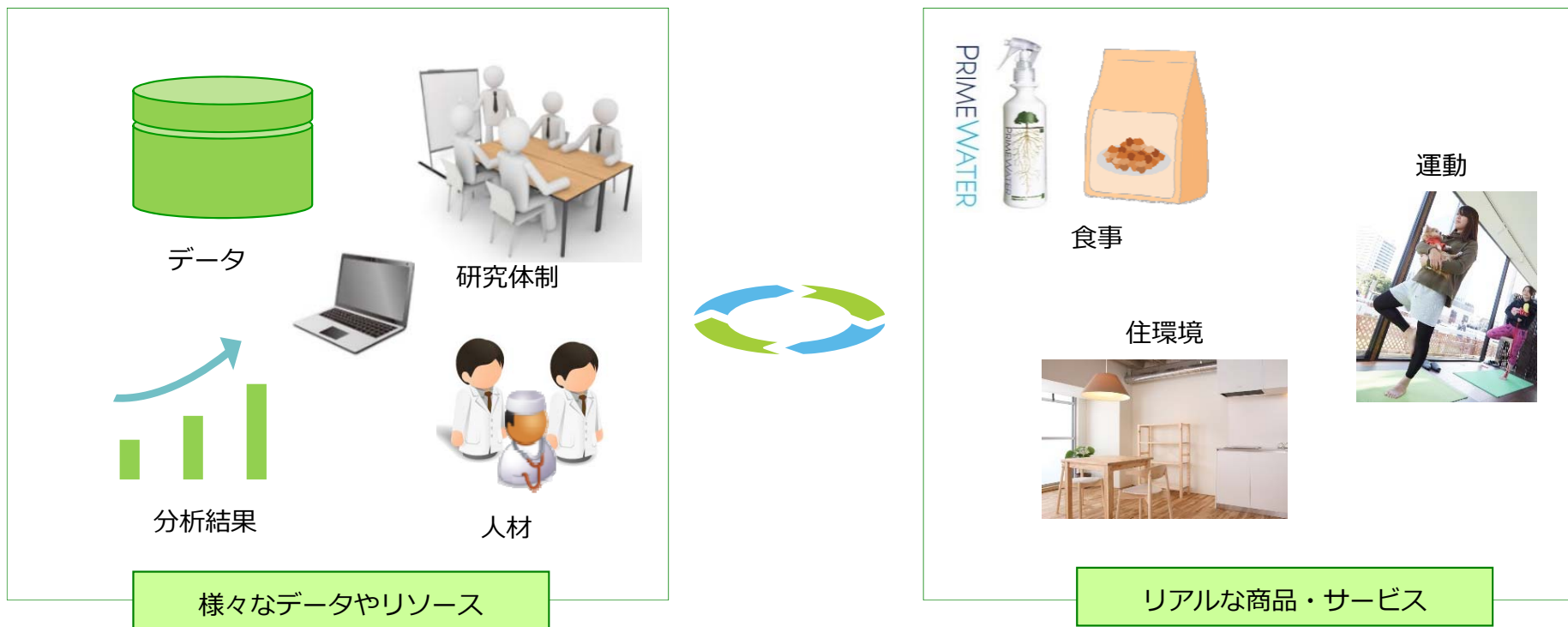
4. 具体的な取組み – データやリソースから、リアルな展開を

アニコムが保有する様々なデータやリソースを活用し、健康寿命延伸に向けたリアルな展開を行います

アニコムには現在、年間250万件の保険金請求データが集まるほか、アニコム パフェ(株)が提供するクラウド型カルテ管理システムに保管されるデータが数十万頭規模に及んでおり、現在、これらのデータに含まれるどうぶつの病気やケガの原因、治療方法、予後などを多面的に解析し、早期改善・再発防止・予防に有効な施策を発見・解明することを目指して研究を続けております。

今後、多種多様な疾病に対して研究を続けることで得られた知見に基づく施策、たとえば正しい生活習慣を送るための「食事」「運動」「健診」「見守りによる体調管理」等の目に見えるリアルな施策を、58万件を超える保有契約や6,000に迫る全国の提携動物病院と共有・展開することでどうぶつの健康寿命を延伸させることを目指し、ペット保険事業の利益向上のみならず新たな事業の展開を加速させてまいります。

現在、アニコム先進医療研究所(株)が中心となり科学的・疫学的な観点からどうぶつの疾病を解析する一方、アニコム パフェ(株)を中心に、解析結果に基づく様々な施策展開を検討しております。



I. 予防型保険会社としての取組み（健康寿命延伸に向けて） 4

II. 2017年3月期 事業計画 9

III. 2016年3月期 決算概要 13

1. 2017年3月期 業績見通しサマリー

業績

- 経常収益 : 28,700 百万円 (前年同期は 26,506 百万円。 **8.3 % 増**)
- 経常利益 : 2,600 百万円 (前年同期は 2,129 百万円。 **22.1 % 増**)
- 当期純利益 : 1,789 百万円 (前年同期は 1,399 百万円。 **27.9 % 増**)

- ・ 2014年6月の保険料改定効果は一巡するが、**保有契約数の順調な増加**により、**経常収益は安定的に拡大**。
- ・ ペット保険で生み出す利益を源泉に**中長期での新規事業・研究開発**として**健康寿命延伸に向けた投資**および**契約獲得向上、損害率改善に向けた投資を継続する**が、**経常利益・当期純利益ともに過去最高を引き続き更新**する見込み。

損害率 (※)
(E/I)

- 通期累計期間 : 58.1 % (前年同期は 60.1 %。 **2.0pt 改善**)
- ・ **損害率改善諸施策の効果発現が継続**していることにより、**引き続き改善を見込む**。

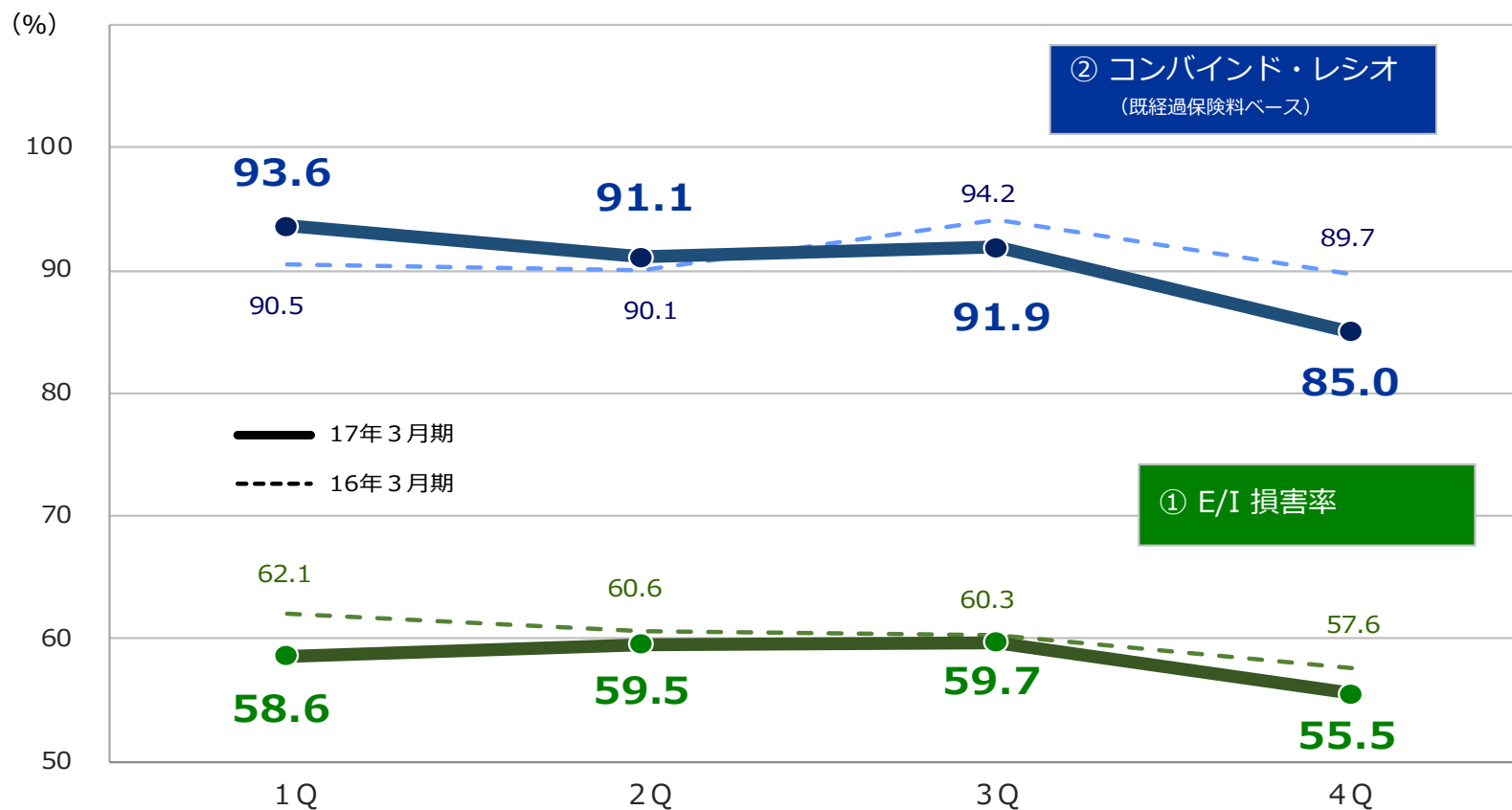
事業費率 (※)
(既経過保険料ベース)

- 通期累計期間 : 32.9 % (前年同期は 31.1 %。 **1.8pt 上昇**)
- ・ 2015年10月の**本社移転に伴う地代家賃や減価償却費が通期で計上**されるほか、予防型保険会社の確立に向けた**新規研究開発に関する人件費、外注委託費、アニコパーク西新宿に係る運営費等**が増加予定。

2. 損害率 及び コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース)

四半期推移・前年同期比較

(注) コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース) : E/I損害率 + 既経過保険料ベース事業費率で算出した利益指標。

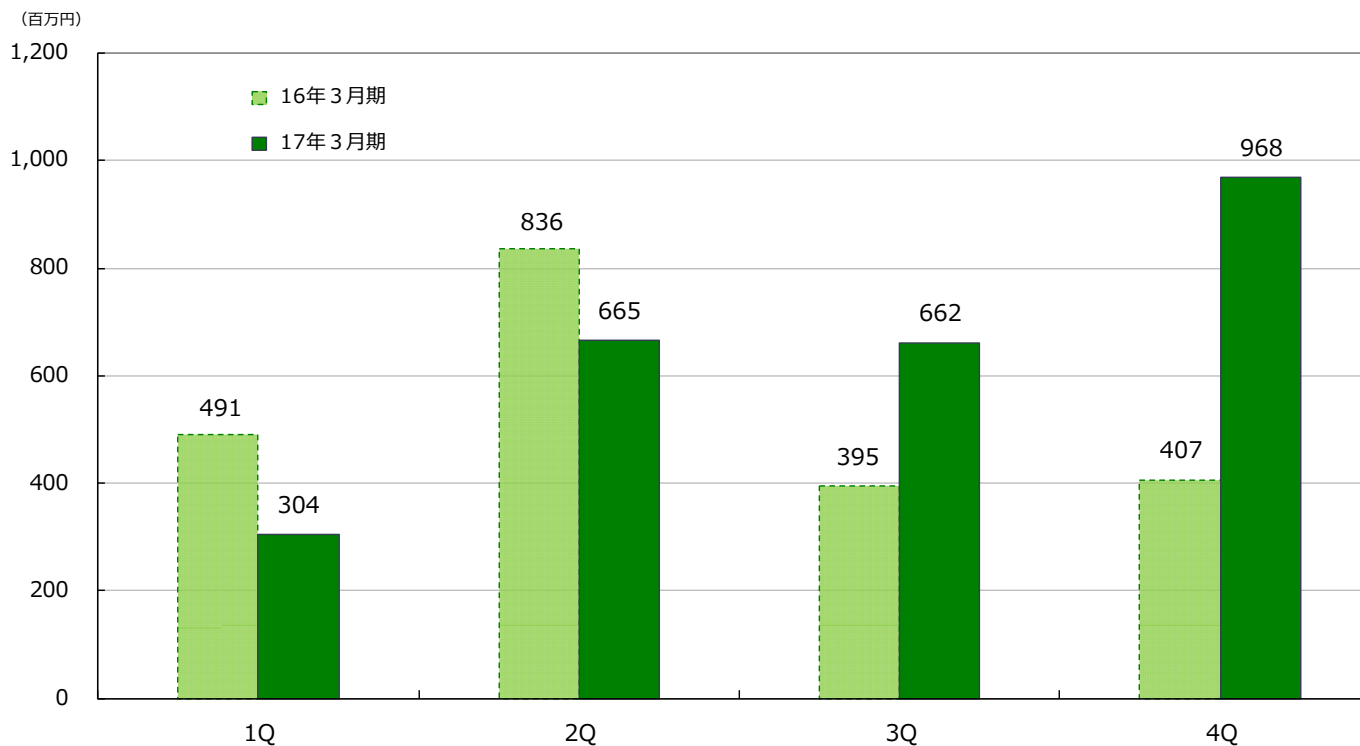


・ **E/I損害率は損害率改善施策の効果発現**により、前年同期を下回って推移を想定 (上表①)。

・ 16年3月期は、15年10月の本社移転に伴う家賃・減価償却費が増加したため3Q以降のコンバインド・レシオが上昇。

・ 17年3月期は、本社移転の影響のほか16年4月の人員増も加わることで、1Q・2Qのコンバインド・レシオは前年同期比で上回ることを想定。しかし、3Q以降は本社移転が一巡することからコンバインド・レシオが前年同期比で下回って推移することを想定 (上表②)。

3. 経常利益 四半期予想推移・前年度比較



異常危険準備金の影響
(通期で71百万円の費用見込)

・戻入益一部あり
・繰入額あり
→ Netで費用計上
(113百万円の費用見込)

・戻入益あり
・繰入額あり
→ Netで利益計上
(171百万円の利益見込)

・戻入益あり
・繰入額あり
→ Netで利益計上
(40百万円の利益見込)

・戻入益一部あり
・繰入額あり
→ Netで費用計上
(168百万円の費用見込)

前四半期比での
損害率の動き

前4Qから上昇

1Qから上昇

2Qから改善

3Qから大きく改善

I. 予防型保険会社としての取組み（健康寿命延伸に向けて） 4

II. 2017年3月期 事業計画 9

III. 2016年3月期 決算概要 13

1. 2016年3月期 決算ハイライト

業績

■ 経常収益 : 26,506 百万円 (前年同期は 22,638 百万円。 **17.1%増**)
 (うち、保険引受収益: 25,370 百万円。 前年同期は 21,733 百万円。 16.7%増)

■ 経常利益 : 2,129 百万円 (前年同期は 1,250 百万円。 **70.2%増**)

- ・ **保有契約数の順調な増加** (前年同期比 7.6%増) に加え2014年6月に実施した**保険料改定効果**が通期に亘り寄与し、保険引受収益は大きく増加。
- ・ **損害率は引き続き改善が進み利益に貢献。**
- ・ ペット保険で生み出す利益を源泉に、**中長期での新規事業・研究開発**として**健康寿命延伸に向けた投資**を実行中。

 損害率
(E/I)

■ 通期累計期間 : 60.1 % (前年同期は 64.4 %。 **4.3pt 改善**)

■ 第4四半期単独 : 57.6 % (前年同期は 58.7 %。 **3.1pt 改善**)

- ・ 2014年6月の保険料改定をはじめとする**損害率改善諸施策の効果発現が継続**していることにより、**大幅な改善を達成。**

 事業費率
(既経過保険料ベース)
+
その他経常費用

■ 通期累計期間 : 31.1 % (前年同期は 28.3 %。 **2.8pt 上昇**)

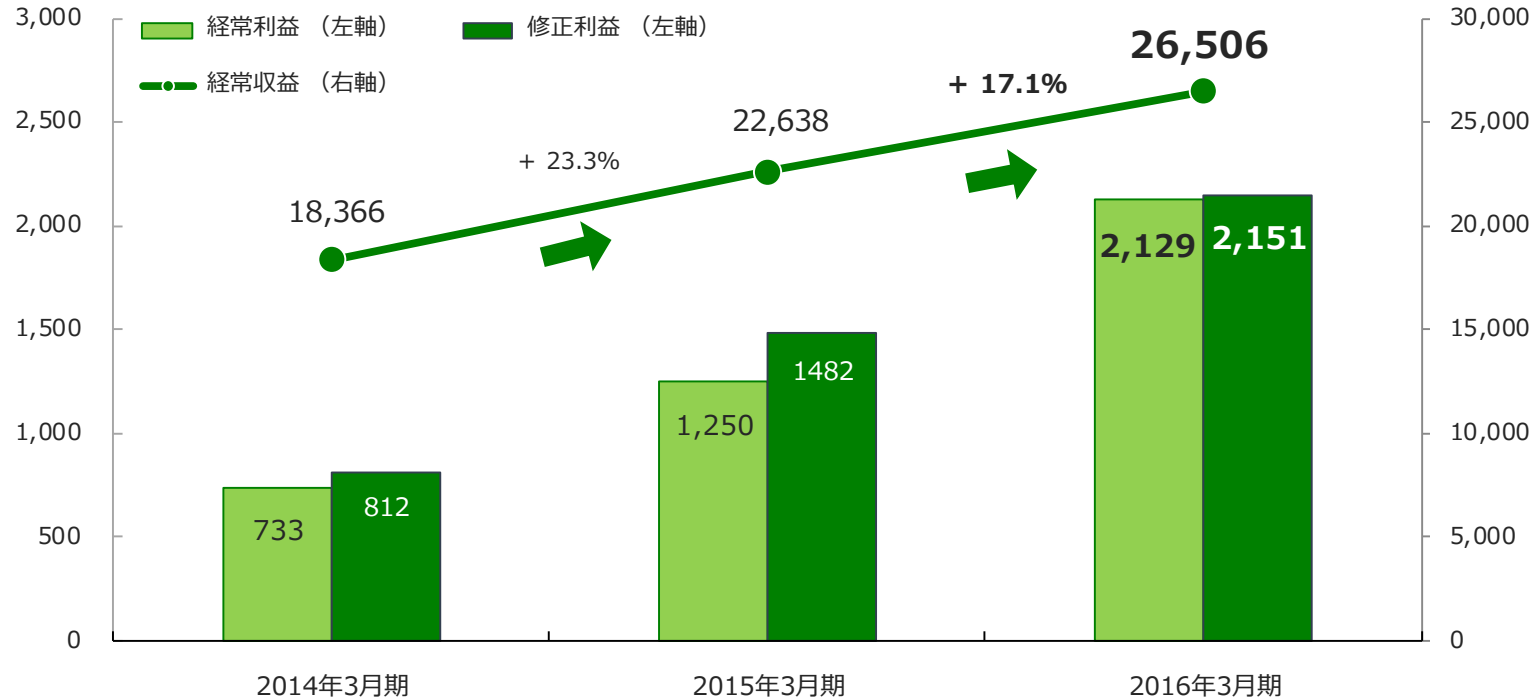
■ 第4四半期単独 : 32.2 % (前年同期は 29.2 %。 **3.0pt 上昇**)

- ・ 事業拡大に伴う人員増加に対応するため、10月の本社移転+オフィス増床により一時的な費用のほか、家賃および減価償却費が増加。
- ・ 損害率が当初想定以上に改善したことに伴い来期以降の投資計画を前倒しで実施。特に健康寿命延伸に向けた投資を進めている結果、研究機器の購入に伴う減価償却費、専門人材獲得による人件費・採用費および外注委託費、アニコパーク西新宿に係る運営費等が増加。

2. 経常収益・経常利益・修正利益の推移

(注) 修正利益 : ペット保険引受事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。
 経常利益±異常危険準備金影響額±保険引受以外の営業費・一般管理費±
 資産運用収支±その他収支にて算出。

(単位: 百万円)



- ・ 2014年6月の保険料改定効果に加え保有契約数が着実に増加していることから、**経常収益は順調に拡大。**
- ・ 損害率の改善が想定以上に進んでいることから、ペット保険引受事業の実質的な利益である **修正利益も大きく増加。**
- ・ 順調なペット保険事業の利益を基に新規投資を前倒して実施しているものの、**経常利益は過去最高を大きく更新**

3. 2016年3月期 連結決算概況

(百万円)

主な勘定科目の内容と増減理由

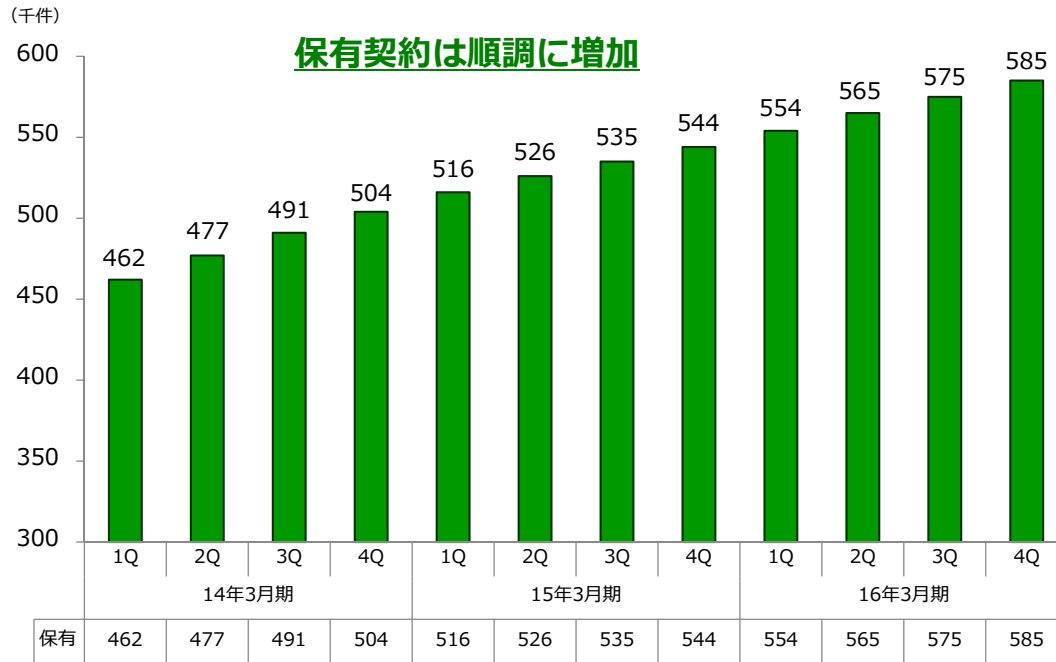
	15年3月期	16年3月期	対前期増減率
経常収益	22,638	26,506	17.1 %
保険引受収益	21,733	25,370	16.7 %
資産運用収益	522	690	32.0 %
その他経常収益	382	446	16.6 %
経常費用	21,387	24,377	14.0 %
保険引受費用	15,920	17,393	9.3 %
(正味支払保険金)	(12,149)	(13,547)	11.5 %
(損害調査費)	(741)	(895)	20.7 %
(諸手数料及び集金費)	(1,269)	(1,590)	25.3 %
(支払備金繰入額)	(144)	(122)	△ 15.0 %
(責任準備金繰入額)	(1,616)	(1,237)	△ 23.5 %
(うち未経過保険料)	(1,499)	(1,120)	△ 25.3 %
(うち異常危険準備金)	(116)	(116)	△ 0.1 %
資産運用費用	21	182	753.8 %
営業費及び一般管理費	4,905	6,699	36.6 %
その他経常費用	540	100	△ 81.4 %
経常利益	1,250	2,129	70.2 %
当期純利益	829	1,399	68.8 %
既経過保険料	20,233	24,250	19.8 %
発生保険金 (損害調査費含む)	13,035	14,566	11.7 %
E/I 損害率 ①	64.4 %	60.1 %	△ 4.3 pt
既経過保険料 ^ハ -入事業費率 ②	28.3 %	31.1 %	2.8 pt
コバ イト ^ハ ・レソ ^ハ (既経過保険料 ^ハ -入) ①+②	92.7 %	91.2 %	△ 1.5 pt

- ① 保険引受収益 (詳細は「4.経常収益のパラメータ」参照)
 - ・保有契約が前年同期比7.6%増加。
 - ・2014年6月に平均12%の保険料改定を行い、当期は通期に亘り収益を底上げ。
- ② 資産運用収益
 - ・主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。
- ③ 正味支払保険金
 - ・保有契約数の増加に伴い保険金支払も増加するが、損害率改善施策等により、保険引受収益の増加率(17.1%)に比較し低い増加率で着地。
- ④ 損害調査費
 - ・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。
- ⑤ 諸手数料及び集金費
 - ・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に伴って増加。
- ⑥ 支払備金繰入額
 - ・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
 - ・支払備金(B/S) 期末残高-期首残高で算出。
 - ・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。
- ⑦ 未経過保険料繰入額
 - ・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
 - ・繰入額は期末残高-期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
 - ・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料(≒発生ベースの保険料)となる。
- ⑧ 異常危険準備金
 - ・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
 - ・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
- ⑨ 営業費及び一般管理費
 - ・人件費と物件費がおおよそ40%：60%の割合。
 - ・人件費は業容拡大に伴い従業員数増加(前期末512名から660名。+148名)。
 - ・物件費は本社移転による費用増や研究開発投資の加速による増加。

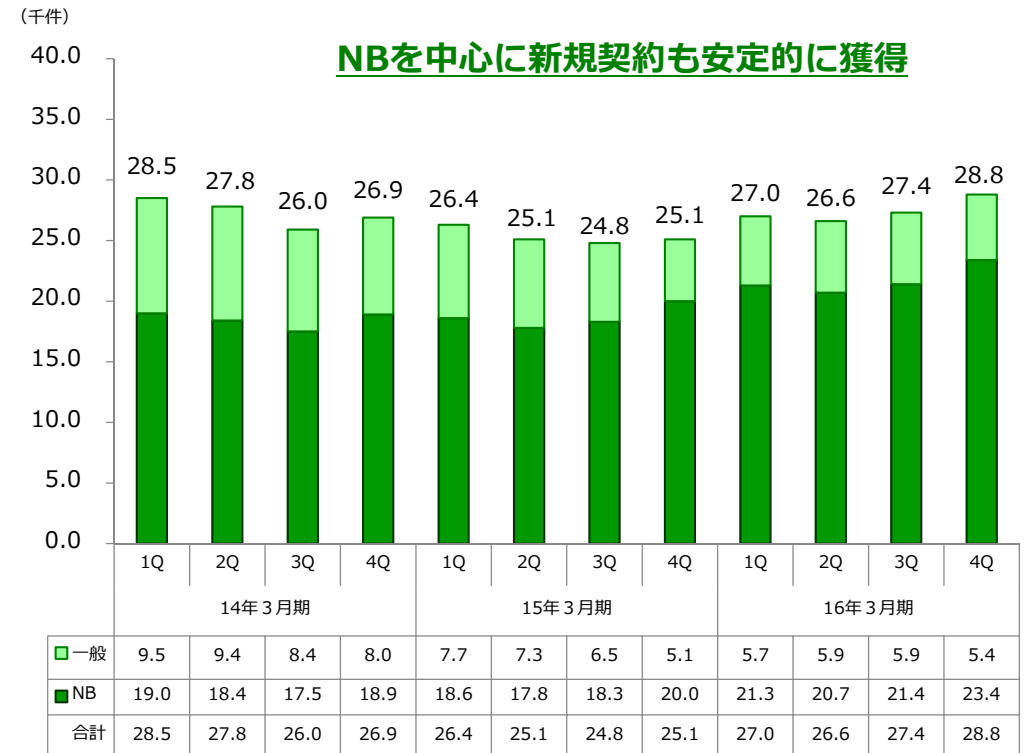
4. 経常収益のパラメータ (ペット保険保有契約件数／新規獲得件数の推移)

- ・ **新規契約獲得は順調に推移**。特にペットショップチャネル経由の新規契約獲得数は、当初計画を7%程度上回っている。
- ・ **既存契約の継続率は88%前後で推移しており、順調な獲得が継続**。
- ・ 以上の結果、**保有契約数は順調に増加**。**2017年3月期末も着実に増加**し、63万件で着地見込み。
- ・ 50%プランと70%プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ3：2で50%プラン割合が多い。一方、新規契約では70%プランが5割超。

■ 保有契約件数の四半期推移



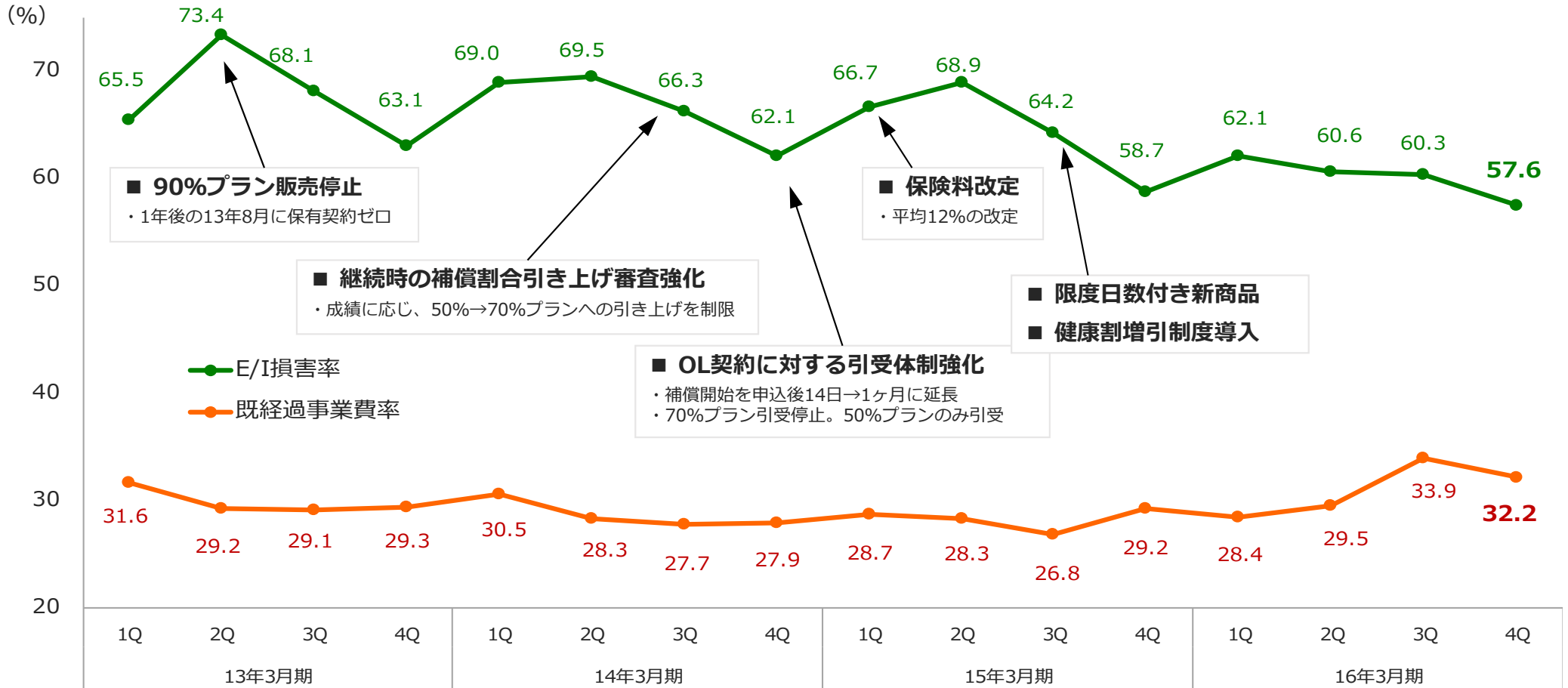
■ 新規契約獲得件数の四半期推移



※ NB：ペットショップチャネル

5. 経常費用のパラメータ (損害率 (E/I)、既経過保険料ベース事業費率)

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
 注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



- ・ **E/I損害率**は、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Q・4Qに通院頻度が減少することで改善する季節性を有する。
- ・ **事業費率は、10月の本社移転**に係る一時的な費用増のほか、家賃および減価償却費等が増加している。また、損害率が当初想定以上に改善したことに伴い来期以降の投資計画を前倒しで実施しており、特に**健康寿命延伸に向けた投資を進めている**結果、研究機器の購入に伴う減価償却費、専門人材獲得による人件費・採用費および外注委託費、アニコパーク西新宿に係る運営費等が増加している。

6. 連結貸借対照表 サマリー

(百万円)

主な勘定科目の内容と増減理由

	15年3月期	16年3月期	増減率
資産合計	22,337	25,192	12.8%
現金及び預貯金	4,217	7,556	79.2%
有価証券	15,108	10,739	△ 28.9%
有形固定資産	250	1,527	509.5%
無形固定資産	566	653	15.3%
その他資産	1,945	4,297	121.0%
繰延税金資産	263	433	64.4%
貸倒引当金	△ 13	△ 16	-%
負債合計	13,066	14,492	10.9%
保険契約準備金	10,528	11,888	12.9%
うち支払備金	1,435	1,558	8.5%
うち責任準備金	9,093	10,330	13.6%
その他負債	2,411	2,414	0.1%
賞与引当金	103	157	51.6%
価格変動準備金	22	32	44.4%
純資産合計	9,270	10,699	15.4%
株主資本	9,272	10,762	16.1%
うち資本金	4,350	4,396	1.0%
うち資本剰余金	4,240	4,286	1.1%
うち利益剰余金	681	2,080	205.3%
うち自己株式	△ 0	△ 0	-%
その他有価証券評価差額金	△ 1	△ 123	-%
新株予約権	-	60	-%
負債・純資産合計	22,337	25,192	12.8%

① 有価証券

・ 主に国内株式・国内REIT・CRF等にて運用。

② 有形固定資産

・ 本社移転および健康診断事業施設にかかる固定資産の取得による増加。

③ その他資産

・ 本社移転や研究拠点増加に伴う敷金の増加に加え、研究開発投資・営業関連投資に係る前払費用等を計上。

④ 支払備金

・ 将来の保険金支払に備えて計上される未払金。
すでに請求を受けている①普通支払備金と、保険事故は発生しているものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上。
・ 基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向。

⑤ 責任準備金

・ 未経過保険料である①普通責任準備金(9,517百万円)と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金(813百万円)を計上。
・ 普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%~40%前後が残高として計上される傾向。

7. 連結キャッシュ・フロー サマリー

(百万円)

	15年3月期	16年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,094	1,960
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,963	2,489
財務活動によるキャッシュ・フロー	135	89
現金及び現金同等物の増減額	265	4,539
現金及び現金同等物の期首残高	1,301	1,567
現金及び現金同等物の期末残高	1,567	6,106

- ・コンバインド・レシオの改善と保険契約の伸長が相俟って、安定した営業キャッシュ・フローを計上。
- ・運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール。
- ・財務キャッシュ・フローは新株予約権の行使。

APPENDIX

1. 主要経営パラメータ
2. グループの事業概要

1. 主要経営パラメータ (アニコム損保(株) 単体)

	①	③	③-①	
	15年3月期末	16年3月期末	対前年度末増減	
			件数	率
① 保有契約数	544,815 件	585,962 件	41,147 件	7.6 %
② 新規契約数	101,628 件	110,093 件	8,465 件	8.3 %
(うち新生児)	(75,007 件)	(86,955 件)	(11,948 件)	15.9 %
(うち一般)	(26,621 件)	(23,138 件)	(△3,483 件)	△13.1 %
③ 継続率	88.7 %	88.2 %	△0.5 pt	-
④ 保険金支払件数	2,519 千件	2,681 千件	162 千件	6.4 %
⑤ 対応動物病院数	5,773 病院	5,969 病院	196 病院	3.4 %

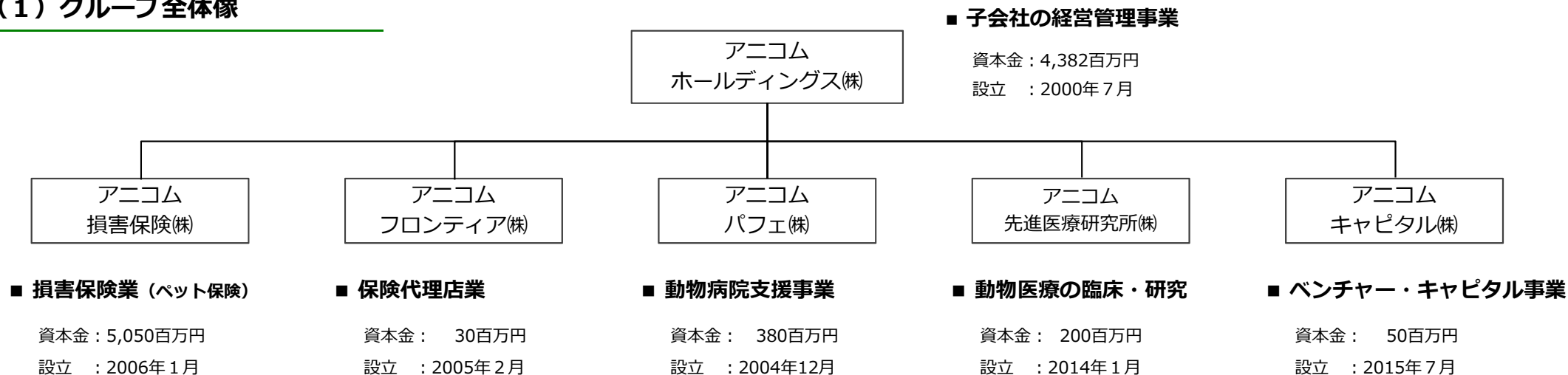
17年3月期末 (5月9日予想)	③-②	
	対前期末	
	件数	率
630,000 件	44,038 件	7.5 %
118,000 件	-	-
(93,000 件)	-	-
(25,000 件)	-	-
88.1 %	-	-
2,800 千件	118 千件	4.4 %
6,200 病院	231 病院	3.9 %

	15年3月期	16年3月期	対前年同期増減
① E/I 損害率	64.4 %	60.1 %	4.3 Pt 改善
② 既経過保険料ベース事業費率	28.3 %	31.1 %	2.8 Pt 上昇
③ コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース)	92.7 %	91.2 %	1.5 Pt 改善
④ 単体ソルベンシー・マージン比率	288.7 %	282.6 %	△ 6.1 pt

17年3月期 (5月9日予想)
59.3 %
32.4 %
91.7 %
280 %前後

2. グループの事業概要

(1) グループ全体像



(2) グループ沿革

2000年 4月	任意組合として anicom（どうぶつ健康促進クラブ）設立	2008年 1月	アニコム損保株がペット保険の販売を開始
2000年 7月	anicomから「どうぶつ健保」事務受託会社として株ビーエスピー設立 (2005年1月にアニコム インターナショナル株に、2008年6月に アニコム ホールディングス株に、それぞれ商号変更)	2008年 4月	アニコム損保株がペット保険の補償を開始
2004年12月	アニコム パフェ株設立	2009年11月	「家庭どうぶつ白書」発刊（以降、毎年発刊）
2005年 2月	アニコム フロンティア株設立	2010年 3月	アニコム ホールディングス株が東証マザーズ上場（証券コード：8715）
2006年 1月	保険会社設立準備のため、アニコムインシュランスプランニング株設立 (2007年12月にアニコム損害保険株に商号変更)	2014年 1月	日本どうぶつ先進医療研究所株（現「アニコム先進医療研究所株」）設立
2007年12月	アニコム損害保険株が損害保険業免許を取得 アニコム インターナショナル株が保険持株会社としての認可取得	2014年 6月	アニコム ホールディングス株が東証一部に市場変更
		2015年 7月	アニコム キャピタル株設立
		2016年 4月	当社49%、富士フイルム株51%出資の動物の再生医療に関する合併事業として、セルトラスト・アニマル・セラピューティクス株を設立

2. グループの事業概要

(3) ペット保険商品の概要

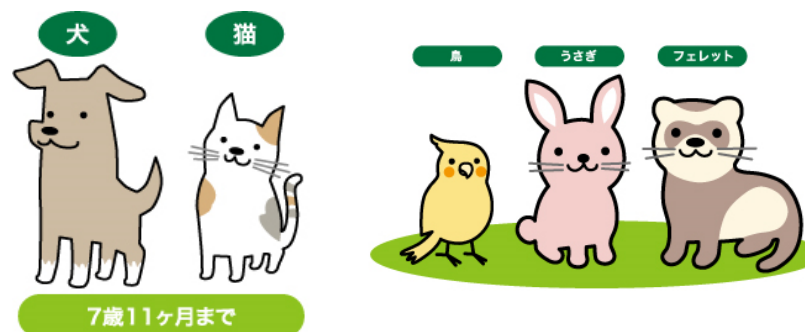
① 補償内容

どうぶつのケガ・病気に対し、保険の対象となる診療費の70%もしくは50%を、支払限度額の範囲内で保険金としてお支払いします。
(死亡補償ではありません)

	ふあみりい70%プラン 支払割合 70% 支払限度額と限度日数(回数)	ふあみりい50%プラン 支払割合 50% 支払限度額と限度日数(回数)
通院 入院	1日あたり最高 14,000円 まで ※1年間にご利用できる日数は 各20日まで です。	1日あたり最高 10,000円 まで ※1年間にご利用できる日数は 各20日まで です。
手術	1回あたり最高 140,000円 まで ※1年間にご利用できる回数は 2回まで です。	1回あたり最高 100,000円 まで ※1年間にご利用できる回数は 2回まで です。

② 対象となるどうぶつと年齢

- 新規にお申込みいただけるどうぶつは7歳11ヶ月までの健康体である犬・猫。
- ペットショップでお迎えになる場合は、犬・猫のほか、鳥・うさぎ・フェレットについてもお申し込み可能。



2. グループの事業概要

(4) 特長と競争優位の源泉

① 窓口精算システム

人間の健康保険と同様の窓口精算システムを採用し、契約者の利便性が高い仕組みを構築しております。

契約者の方には人間の健康保険証と同様の「どうぶつ健康保険証」を発行しております。この「どうぶつ健康保険証」をアニコム損保㈱と提携する動物病院の窓口で提示すればお支払いは自己負担額（保険金支払対象額の30% or 50%。ただし限度金額あり）のみとなり、その場で保険金の精算が完了します。



② 圧倒的な提携動物病院の数

ペット保険を取り扱っている同業他社でも同様の仕組みを採用している会社もありますが、その提携動物病院の数には圧倒的な差があります。

アニコム損保㈱では全国で5,969の動物病院施設と提携（2016年3月末時点）しており、保険金請求の約85%が窓口精算による請求であります。



全国 **5,969** 動物病院と提携
(※ 2016年3月末時点)

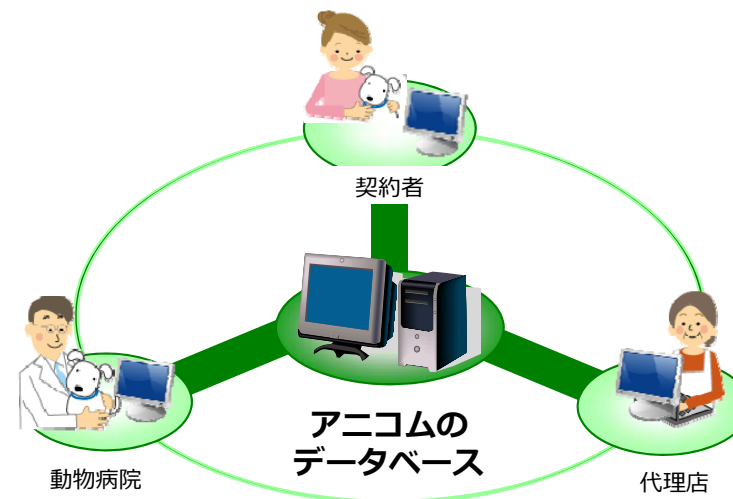
2. グループの事業概要

(4) 特長と競争優位の源泉

③ シームレスネットワーク

保険契約に関する情報を契約者・動物病院・代理店・アニコム損保間で即座に繋げるネットワークを構築しております。

保険金請求データのみならず契約データ等もネットワークで共有することにより各当事者の利便性の向上を図るとともに大幅なコストダウンを達成。事実上の参入障壁のひとつとなっております。



④ 多種多様なバックグラウンドを持つ社内の専門家人材

2016年3月末日現在、99名の獣医師がアニコムグループに所属しております。

それぞれの獣医師は、大学院で研究を続け博士号を取得している者から、臨床現場で1次診療や2次診療、救急診療を経験している者まで、そのバックグラウンドは多種多様であります。

これら獣医師は、獣医療に関する研究・分析のほかペット保険の引受審査や支払調査を担当する者、動物病院の獣医師や契約者と対話する者等、「獣医師だからこそ」の信頼性が必要となる様々な場面で活躍しております。

また、獣医師のみならず人間の医師、医学博士、農学博士など幅広い専門家人材を活用し、予防型保険会社への歩を進めております。



本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部

東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

URL : <http://www.anicom.co.jp/>

